

第2学年国語科学習指導案

令和4年10月12日（水）第5校時

児童 第2学年2組 28名

授業者 青木京子

令和4年度 研究主題

思考力・判断力・表現力の基盤となる言語能力の育成

～国語科を中心とした言語活動の充実～

1 単元名 そうぞうしたことを、音読げきにあらわそう ～そして学習発表会へ～

教材名 「お手紙」（光村図書 2年下）

2 単元の目標

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能〕（（1）ク）
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕（C（1）エ）
- ・文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕（C（1）カ）
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 （（1）ク）	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C（1）エ） ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C（1）カ）	①粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。

4 単元・教材について

（1）単元について

本単元は、小学校学習指導要領、国語〔第1学年及び第2学年〕2内容〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと（1）

- | |
|----------------------------------|
| エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 |
| カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 |

を受けて設定した。この単元を通して身に付けさせたい言語能力は、「場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について具体的に想像する力」、「文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合ったりよさを認め合ったりする力」である。その力を付けさせるために、本単元では、「C 読むこと」の言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」を具現化し、「そうぞうしたことを、音読げきにあらわそう」というゴールを設定し、単元全体を通して課題解決をしていく活動を行っていく。改訂された学習指導要領では、文学的文章を読む目標が、「想像を広げながら読む」から、「大体を捉える」、「具体的に想像する」に変わった。設定した言語活動を通して、「正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育みたい。

また、言語活動として設定した音読劇は、児童にとって学習意欲を喚起する学習活動であるため、意欲的に学習を行うことにもつながると考える。第1時では、今までの学習を想起しながら単元のゴールを提示し、そのためにどのように読むことが必要かを考えさせ、学習の見通しをもたせるとともに、主体的な学習につなげていけるようにする。物語文は、通常複数の場面によって構成され、展開に即して時間や場所、登場人物などの様子に変化しながら描かれている。主体的に音読劇を行う課題を解決する過程で、着目した場面の様子などの叙述を基に、登場人物の気持ちや行動、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりしながら、読みの力や表現する力を伸ばしたりしていきたい。

(2) 教材について

本教材は、登場人物が3人と少なく、会話文を中心として書かれている。そのため、音読劇をするには、ふさわしい教材である。また、会話文や行動から場面の状況や人物の内面、立場などを想像することができる。行動の繰り返しや口調など、気持ちの変化が表れる言葉等に注目することで読みを深めていけると考える。登場人物の変容としては、かえるくんもがまくんも「かなしい気分」から「しあわせな気持ち」と変化している。その気持ちの変容は、どちらも「手紙」が関係するが、その気持ちになった二人の理由は、異なる。しっかりと叙述に戻った上で考えさせるようにすることで二人の気持ちの違いも読み取らせていきたい。また、登場人物のかたつむりくんにも注目して読ませたいと考える。かたつむりくんに手紙を渡したことが、結果として4日間にわたる「二人の幸せな時間」を作り出した。実際に手紙が届く場面の描写は短く、本教材の特徴である会話文もない。そのため、待っている間や手紙が届く場面の様子は読者に想像の余地を残している。かたつむりくんの人柄や行動を想像しながら、違った視点からも物語のおもしろさを感じられるようにし、中心人物以外の人物の大切さを学習発表会のそれぞれの役の大切さにもつなげていきたい。

また、本教材は、シリーズがある物語文である。学習と並行して読み聞かせを行うことで、読書意欲につながったり、本教材と比較して捉える力を伸ばしていきたい。

5 児童の実態

省略

6 単元の指導計画と評価計画（全 12 時間）

過程	時間	学習目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
第一次 見通しをもつ	1	単元のめあてを知り、学習の見通しをもって音読劇に取り組もうとすることができる。	学習の見通しをもとう 1 題名と挿絵から、物語の内容を想像する。 2 全文を聞き、登場人物や話の内容を確認する。 3 今までに読んだ物語の学習を振り返り、単元の学習の課題を設定し、学習の見通しをもつ。	
第二次 捉える 深める	2	全文を読み、場面の違いや登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。	お話をたしかめよう 1 時や場所の移り変わりに着目して物語を分ける。 2 がまくんとかえるくんの会話や行動を整理する。 3 大体を捉えながら音読をする。	アー① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (音読)
	3	1 場面の登場人物の気持ちやその理由について叙述を基に捉えることができる。	1 のばめんを読み、とうじょう人ぶつの気持ちを考えよう 1 1 場面のがまくんとかえるくんの気持ちを考え、教科書に線を引いたり、書き込みをしたりする。 2 全体で読み方の共有をする。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書)
	4	1 場面で読み取った登場人物の気持ちから行動を具体的に想像し、音読の工夫をすることができる。	とうじょう人ぶつの行どうをそうぞうし、音読のくふうを考えよう 1 前時で読み取った気持ちから登場人物の行動を具体的に想像し、音読の工夫を考える。 2 考えた音読の工夫を生かして、3 人組で役割音読をする。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書、ノート)

	5	2 場面の登場人物の行動の様子や気持ち、その理由について叙述を基に捉え、行動を具体的に想像し音読の工夫を考えることができる。	とうじょう人ぶつの行どうをそうぞうし、音読のくふうを考えよう 2 場面を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを考え、行動を具体的に想像する。 - 音読の工夫を考え、役割音読をする。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書、ノート)
	6	3 場面前半の登場人物の気持ちやその違いについて叙述を基に捉え、行動を具体的に想像し音読の工夫を考えることができる。	とうじょう人ぶつの行どうをそうぞうし、音読のくふうを考えよう 3 場面前半のがまくんとかえるくんの気持ちを考え、行動を具体的に想像する。 - 音読の工夫を考え、役割音読をする。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書、ノート)
	7 (本時)	3 場面後半の登場人物のやりとりや気持ちの変化、その理由について叙述を基に捉え、行動を具体的に想像し音読の工夫を考えることができる。	とうじょう人ぶつの行どうをそうぞうし、音読のくふうを考えよう 3 場面後半を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを考え、行動を具体的に想像する。 - 音読の工夫を考え、役割音読をする。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書、ノート)
	8	4 場面後半の登場人物の気持ちやその理由について叙述を基に捉え、行動を具体的に想像し音読の工夫を考えることができる。	とうじょう人ぶつの行どうをそうぞうし、音読のくふうを考えよう 4 場面後半を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを考え、行動を具体的に想像する。 - かたつむりくんについて考える - 音読の工夫を考え、役割音読をする。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書、ノート)
第三次 広げる	9	登場人物の気持ちや様子を想像して、音読の工夫を考えることができる。	読みたいばめんをえらび、音読げきのじゅんぴをしよう - グループづくりをする。 - 音読劇の台本づくりを行う。 - 考えた音読の工夫を基に、練習する。	ウー① 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。(発言、教科書、ノート)

1 0	グループで音読練習を行い、互いの音読の方法について感想を伝え合うことができる。	グループで音読げきのれんしゅうをしよう 1 グループごとに音読劇の練習をする。 2 音読劇をグループ同士で見せ合って、アドバイスを伝え合う。	ウー①粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。(発言、教科書、ノート)
1 1	友達の助言や読み方から、自分の読み方を考え直して練習することができる。	音読げきをパワーアップしよう 1 前時のアドバイスや他のグループの工夫を基に、読みの工夫をさらに考える。 2 友達の助言や読み方を自分の読み方の工夫に生かして練習する。	イー② 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(発言、教科書、ノート)
1 2	これまで学んだことを生かして、音読劇を発表することができる。	音読げきをはっぴょうして、かんそうをつたえあおう。 1 グループごとの発表を聞き、感想をワークシートに書き込む。 2 感想を交流する。 3 学習を振り返り、まとめる。	ウー①粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。(発言、教科書、ノート、音読発表) アー① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(音読発表)

7 研究主題との関連

【児童に身に付けさせたい言語能力】

- ①場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について具体的に想像する力
- ②文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合ったりよさを認め合ったりする力

【その言語能力を身に付けさせるために有効な言語活動】

「そうぞうしたことを、音読げきにあらわそう」という言語活動をゴールに設定し、単元全体を通して課題解決をしていく。また、本単元で身に付けた力を学習発表会に生かしていけるように意識付けを行っていく。

【目指す児童像】

- ①文章や挿絵を手がかりに、場面の様子や登場人物の気持ちを想像できる児童
- ②自分の思いや考えをもち、友達と伝え合うことができる児童

さらに、研究主題となっている「思考力・判断力・表現力の基盤となる言語能力」の中には、学習指導要領のキーワードをなっている「見方・考え方」に含まれると考え、「言葉による見方・考え方」を働かせ、児童に意識化させながら学習活動を繰り返すことで、「思考力・判断力・表現力の基盤となる言語能力」の育成を図れると考えた。

＜本単元による意識化させたい「言葉による見方・考え方」＞

- 比較・・・相違を比べ、判断する。
 - ・もしこの言葉がなかったら、この言葉があるから
 - ・言葉や口調の違い
 - ・行動や気持ちの変化
 - ・繰り返しの言葉・行動・表現
 - ・（自分の経験等と比べて）普通だったら
- 類推・・・既習や今までの経験等を関連させ、推測する。
 - 例）今までの音読劇の経験から、～するとよくなりそう。
 - 前の場面で、似たようなところがあったから、これも、～だろう。
- 因果・・・「なぜ」「どうして」を考えることで登場人物の気持ちをより深く想像する。
 - ⇒気持ちの程度を考えることができる。
- 観点・・・視点を与えて、そこから考えるようにする。
 - ・目線、表情など
 - ・音読の技法

また、「見方・考え方」を働かせるためには、語彙そのものの獲得も継続していくことが大切である。そのため、

○語彙の獲得…気持ちを表す際、「ことばのたからばこ」の活用

○読書意欲…シリーズ作品に触れることで読書意欲の喚起 も本単元を通して意識して行う。

（加えて、シリーズ本の読書は、「お手紙」と比べて読むことで、「比較」したり、「類推」したりする力にもつながると考える。）

「どこに目をつければよいか」（見方）、「どうやって考えたらよいか」（考え方）を子どもたちから引き出すことが大切であるが、状況に応じて教師が示すことも必要と考える。スパイラルに意識化していくことで、「どこに目をつければよいか」（見方）、「どうやって考えたらよいか」（考え方）が既習事項として積み上がり、「思考力・判断力・表現力の基盤となる言語能力」として発揮されることがある。児童が自ら言葉に着目して、自覚的に捉えたり用いたりする姿を目指していくことが、

研究テーマに迫れると考える。

8 本時（全12時間中の7時）

（1）本時の目標

- ・3場面後半の登場人物のやりとりや気持ちの変化、その理由について叙述を基に捉え、行動を具体的に想像し音読の工夫を考えることができる。

（2）本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点☆配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5分	1 前時までの振り返りをする。	・前時のがまくんとかえるくんの気持ちを想起させる。	
	とうじょう人ぶつの行どうをそうぞうし、音読のくふうを考えよう		
展開 35分	2 3の後半の場面を音読する	・登場人物の気持ちを考えながら、音読するように声掛けをする。	
	3 がまくんとかえるくんの気持ちを考える。	・がまくんの気持ちが変わったことを確認し、いつ、何をきっかけに変わったのかを意識しながら、教科書に書き込むようにする。 ☆自分から書き込めない児童には、気持ちの分かりやすい文章を示し、考えさせていく。	イー① 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (発言、教科書)
	4 ペアで考えを交流する。	・友達の見解でよいと思ったところは、書き加えていくようにする。	
	5 全体での交流をする。	・変化があったり、気持ちが強いところを中心に確認していく。 ・必要に応じて、がまくんのしあわせな気持ちになった理由を考える発問を行う。	ウー①粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。(発言、教科書、ノート)
まとめ 5分	6 音読の仕方を考え、3人組で音読の練習をする。	・グループで音読の仕方をアドバイスしながら、練習するようにする。 ・本時の学習を生かせるようにする。	
	7 本時のふり返しをする。	・3場面後半での読みや音読について、振り返りをする。 ・次時の見通しをもたせる。	

(3) 板書計画

〈テレビ〉活動に応じて ・音読名人 ・振り返りの書き方	<table border="1"><tr><td data-bbox="1220 235 1428 638"> お手紙 とうじょう人ぶつの行どうを そうぞうし、音読のし方を 考えよう </td><td data-bbox="478 235 1189 638"> 本文（拡大） ※児童の発言に沿って 気持ちを書き込んでいく </td></tr></table>	お手紙 とうじょう人ぶつの行どうを そうぞうし、音読のし方を 考えよう	本文（拡大） ※児童の発言に沿って 気持ちを書き込んでいく
お手紙 とうじょう人ぶつの行どうを そうぞうし、音読のし方を 考えよう	本文（拡大） ※児童の発言に沿って 気持ちを書き込んでいく		

(4) 授業観察の視点

- ①自分の学年等と関連させて考え、2年のうちに、身に付けたい力とは。
- ②音読に生かせるよう、言葉に着目しながら気持ちを読み取ることができたか。